

漁場環境監視等強化対策事業

明田川貴子・野口浩介

貝毒被害を防止するため、貝毒および貝毒原因プランクトンの発生を監視するとともに、貝毒発生に関する情報の収集・伝達を行った。

方法

1. 貝毒原因プランクトンモニタリング調査

図1に示した調査地定点(St.1, 2)において、4月から翌年3月にかけて、毎月の定期調査を、4/23, 5/22, 6/22, 7/21, 8/17, 9/17, 10/16, 11/16, 12/14, 22, 1/13, 2/12, 3/12 に実施した。

調査時には、採水バケツを用いて表層海水1Lを採水した。持ち帰った海水はメスシリンダーを用いて1,000mL計量し、目合い20 μ mのプランクトンネットを用いて5mlに濃縮した。濃縮した検体は、貝毒原因プランクトン(麻痺性貝毒においては*Alexandrium*属および*Gymnodinium*属、下痢性貝毒においては*Dinophysis*属)を対象に、光学顕微鏡を用いた形態観察により同定し、細胞数を計数した。なお、調査結果は速やかに漁協および関係機関へ通知した。

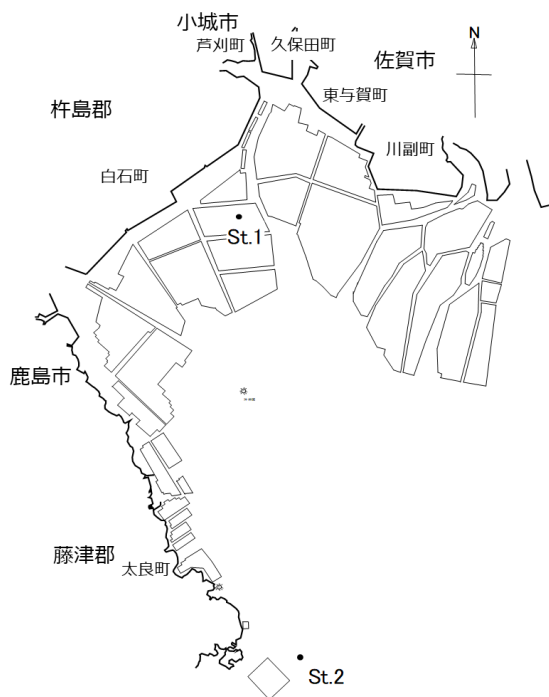


図1 貝毒発生監視調査地点

2. 貝毒モニタリング調査

佐賀県貝毒対策実施要領に基づき、天然および養殖二枚貝を対象にしたHPLC法による麻痺性貝毒調査を行った。サルボウについては5~6月、マガキについては12~3月に各月1回実施した。なお、調査結果は速やかに漁協および関係機関へ通知した。

- ・分析部位：可食部
- ・分析方法：HPLC法(日本水産資源保護協会編「麻痺性貝毒HPLC分析法」)
- ・分析機器：高速液体クロマトグラフ

日本分光株式会社(ポンプ：PU-2080, 反応槽：RO-2061, 蛍光検出器：FP-2020)

結果

1. 貝毒原因プランクトンモニタリング調査

貝毒原因プランクトンの出現状況を表1~3に示す。

期間中に確認された貝毒原因プランクトンは下痢性貝毒原因種の*Dinophysis*属の2種であり、麻痺性貝毒原因種は確認されなかった。*Dinophysis acuminata*はSt.1, St.2の両地点で確認された(表1)。細胞密度は2~10cells/Lであり、調査月別にみると、5月、6月、9月に確認された。*Dinophysis caudata*はSt.1, St.2の両地点で確認された(表2)。細胞密度は3~15cells/Lであり、調査月別にみると、6月、9月、12月に確認された。

2. 貝毒モニタリング調査

貝毒モニタリング調査結果を表3に示す。麻痺性貝毒はいずれの地点、月においても検出限界値以下であった。(換算値：2.0 MU/gより小さい)

令和2年度の本海域における調査期間中の貝毒の発生件数は0件であった。

表1 *Dinophysis acuminata*の出現状況 (単位: cells/L)

st. No.	地点名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	福富干拓地先	0	0	1	0	0	10	0	0	0	0	0	0
2	竹崎島地先	0	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表2 *Dinophysis caudata*の出現状況 (単位: cells/L)

st. No.	地点名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	福富干拓地先	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	竹崎島地先	0	0	0	0	0	4	0	0	15	0	0	0

表3 麻痺性貝毒モニタリング結果

調査内容	採取海域	貝の種類	採取月日	麻痺性貝毒量(MU/g) (HPLC法)
定期調査 (5月)	白石町地先	サルボウ	5月6日	<2.0
	鹿島市地先		5月6日	<2.0
定期調査 (6月)	白石町地先		6月4日	<2.0
	鹿島市地先		6月2日	<2.0
定期調査 (12月)	太良町地先	マガキ	12月10日	<2.0
定期調査 (1月)	太良町地先		1月5日	<2.0
定期調査 (2月)	太良町地先		2月2日	<2.0
定期調査 (3月)	太良町地先		3月2日	<2.0